



選んだ詩 「帰途」

あなたはこの詩の世界の誰？

なにかに傷ついた直後の「ほく」

工夫とこだわり

多様な解釈ができるようにシンプルにした。布を長く使って高さを出すことで、自分の身長の高さが生かされ、力強さが出るようにした。内省を促すような落ち着いた色。



選んだ詩 「帰途」

あなたはこの詩の世界の誰？

「ほく」

工夫とこだわり

「言葉なんか覚えるんじやなかつた」と言うが、ことばをおぼえる以前には戻れない「ほく」。ことばにしばられて生きていかななくてはならない無力感を表そうとした。ロープや白布で、「ほく」をしばることば、ことばによってできた傷口のかさぶた、その上に巻く包帯をイメージした。



選んだ詩 「帰途」 田村隆一

あなたはこの詩の世界の誰？

「あなた」と「きみ」が頭のなかにいる「ほく」

工夫とこだわり

「ほく」の心のなかの優しさと辛さの両方を表すために、左右非対称にし、全体を白と黒で仕上げた。「あなたの涙」をイメージして青色を、「きみの血」をイメージして赤色を筆でとぼした。全体に切り込みを多く入れて、「ほく」の心のポロポロとした感じを表した。



選んだ詩 「帰途」

あなたはこの詩の世界の誰？

「ほく」のなかの「あなた」と「きみ」

工夫とこだわり

左右を対象にしないことで、「あなた」と「きみ」がいっしょにあることを表現した。動きが出るようにした。悲しさを表すためにまつ毛を白くした。涙のような感じ。服にあわせて顔も少し白めにした。



選んだ詩 「未来へ」 丸山薫

あなたはこの詩の世界の誰？

「旅人」

工夫とこだわり

この詩の情景の冷たい印象を表すために青を選び、ひざ丈で羽織れるコートにした。



選んだ詩 「自分の感受性くらい」 茨木のり子

あなたはこの詩の世界の誰？

冷たいコンクリートでできた真四角の部屋にいる「わたし」

工夫とこだわり

静かだけれど力強い服にしたいと思った。前面で自分の腹黒さへの怒り、背中ではさばさに乾いてしまった自分へのさみしさを表した。プレスレットの赤で、力強さと少しの希望を表現した。

選んだ詩 「帰途」

あなたはこの詩の世界の誰？

「ほく」のすぐそばに存在する「言葉」

工夫とこだわり

ことばのもつ強さと弱さ、攻撃性と防御性の二面性を出そうとした。どこか浮世離れしつつも、神々しくならず親近感をもてるようにした。



選んだ詩 「自分の感受性くらい」

あなたはこの詩の世界の誰？

日々の暮らしの何気ない選択の一つひとつに志をもって社会とつながっていきたいと顔をあげている人

工夫とこだわり

1日の終わりに心身を休める寝床のような服にしたいと思った。頭で設計図を描きすぎず、感触を頼りにしながら、切れ込みを入れたり、ふわふわの布を当ててみたり、呼吸できるような穴をつくったりした。よく凝る左肩をあたためてあげるためにボリュームをアップした。



選んだ詩 「帰途」

あなたはこの詩の世界の誰？

ことばで埋めつくされた世界にいる人

工夫とこだわり

上着はもこもこさせたり金色を入れることでことばの重さを、中の服は青のグラデーションで上から下にかけてだんだん弱く悲しく変化していく「ほく」の心を表した。ことばはわたしたちの感情を可視化したものだから、それを表すために前に目をつけた。

